

令和4年度 森林総合研究所九州地域公開講演会

開催日時：令和4年11月12日（土）

開催場所：くまもと県民交流館パレア 10階パレアホール（熊本市中央区手取本町8-9）

参加者数：56名

配信期間：令和4年12月1日（木）～令和5年11月30日（木）

配信場所：YouTube（森林総研チャンネル）

テーマ：熊本の生物多様性を守るモン

熊本県の森林の生物多様性に焦点を当て、県内を中心とした貴重な希少種の保全や外来種防除などに関する最新の研究成果を紹介し、参加者の皆様に生物多様性保全の取組への理解を深めるため、「熊本の生物多様性を守るモン」をテーマに開催しました。

また、YouTube（森林総研チャンネル）にて講演動画を配信します。

挨拶

○九州支所長 塔村真一郎

九州支所の所在地でもある熊本県内の身近な生物多様性保全をテーマとして取り上げました。まず「立田山の変遷からみた多様性保全」では、熊本市内の貴重な森林の管理について、

次に「林木遺伝子銀行110番」では、貴重な樹木遺伝子の保存に関わる取組みを、続いて「ヤエクチナシの保全について」では、熊本特有の希少種の保全に関し、最後の「クリハラリスの防除について」では、外来生物の防除対策の取組みを紹介します。

講演

○九州支所産学官民連携推進調整監 勝木 俊雄

立田山の変遷からみた多様性保全

熊本市の立田山は、地域の貴重な自然ですが、森林の様相はこの100年間に大きく変化しています。アカマツやヤマザクラのように希少となった樹木がある一方、オオシマザクラのように植栽後に野生化している外来の樹木も見られます。地域の生き物の多様性を保全するためには、希少種と外来種に着目した対策がきわめて重要と考えられます。

○九州育種場遺伝資源管理課 飯田 啓達

林木遺伝子銀行110番

林木遺伝資源として、当場に保存する価値を有していると考えられる天然記念物や森の巨人たち百選、これらに類する名木等で、かつ、高齢等の理由による衰弱が見られるなど、後継樹の増殖の緊急性が高いと判断される樹木について、これらを所有する機関等から全く同じ遺伝子を受け継いだ後継クローン苗木の増殖要請があった場合に、さし木やつぎ木等の方法により後継クローンを増殖して里帰りさせる取組みについて紹介します。

○九州支所森林生態系研究グループ 金谷 整一

ヤエクチナシの保全について

約100年前に立田山で発見された「ヤエクチナシ」の自生地は、国指定天然記念物「立田山ヤエクチナシ自生地」となっています。現在、ヤエクチナシは、伐採や盗掘等により自生地では絶滅したと考えられていますが、自生地外の各地に複数系統が植栽されています。これら貴重な遺伝子資源の保全には、みんなで関心を持って取組むことが重要です。

○九州支所森林動物研究グループ 安田 雅俊

クリハラリスの防除について

東南アジアから日本に持ち込まれたクリハラリス（別名タイワンリス）が熊本県宇土半島に定着しています。このリスは農林業や生態系に大きな被害をおよぼすおそれがあることから特定外来生物に指定され、環境省による確認・認定を受けた行政機関や研究機関等が地域

根絶を目標として防除（捕獲）を行っています。近年、捕獲数は大きく減少し、宇土半島からの地域根絶が現実味をおびています。

総合討論

講演後、会場参加者からの質問状を元にパネラーらが豊かな森林と生物多様性の保全に向けて意見を交わした。



講演 1（勝木）



講演 2（飯田）



講演 3（金谷）



講演 4（安田）



総合討論